

木の文化を支える活動（「シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携協力に関する協定」に基づく活動）

四国森林管理局 徳島森林管理署 森林整備官 ○安光 圭一
森林技術指導官 丸田 泰史
三好市教育委員会 社会教育課 文化財係 宮田 健一

1 課題を取り上げた背景

四国の秘境と言われる徳島県三好市西祖谷山村の「祖谷のかずら橋」（写真1）は「木の文化」の象徴であり国指定重要有形民俗文化財に指定され、日本三奇橋の一つとして数えられており、また、三好市東祖谷にある「奥祖谷二重かずら橋」とともに重要な観光資源です。



（写真1：西祖谷のかずら橋）

「祖谷のかずら橋」は、架け替え材料としてシラクチカズラの蔓が使われますが、利用できるまでには約20年から30年かかることから、近隣で採取できる良質な材料は年々減少し資源の確保が難しくなっています。

2 取組の経過

三好市と四国森林管理局徳島森林管理署では、平成20年3月に、シラクチカズラの資源確保のため、「祖谷のかずら橋・架け替え用資材確保の森」協定を結び、国有林でシラクチカズラの苗木を栽培して植栽試験を行ってきましたが、そのほとんどが活着しないという課題を抱えていました。

そこで、マタタビ属植物の増殖・育成の権威である香川大学の片岡教授に依頼し、現地を確認したところ、これまで植栽した箇所の環境は苗木の生育に適していないことが解ってきました。このため、平成28年11月、新たに良好な箇所を選定し、4年生の苗木12本を植栽したところ、翌春に全ての活

着が確認されました。適地の問題点は解決しましたが、その後も育苗や育成技術・果実等の活用方法の検討など、香川大学農学部から技術的支援・指導を受ける必要がありました。このため、三好市、香川大学農学部、徳島森林管理署の三者による「シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携協力に関する協定書」を平成30年2月23日に締結しました。

3 実行結果

平成30年11月に新たな植栽箇所の採光条件を良くするため伐採、シカ食害防止ネットの設置などの整備を行い、令和元年6月、地元「西祖谷小中学生」と「祖谷のかずら橋架け替え資材保存実行委員会」が挿し木により育てた苗木100本を、片岡教授の指導のもと植栽しました（写真2）。



（写真2：西祖谷中学生による植栽）

13か月経過後した令和2年7月に現地を確認したところ、苗木6本は枯死しましたが94本の活着が確認され、最大のもは235cm、平均苗木長は約80cmに成長し良好な成育結果が得られました（写真3）。



（写真3：令和2年7月現地状況）

4 今後取り組むべき内容

引き続き、三者でシラクチカズラの安定的な供給が行えるよう、継続して苗木の増殖やフィールド提供など育成活動に取り組んでいきます。また、三好市では、幻の果実と呼ばれるシラクチカズラ（サルナシ）の実を加工品とした土産物の需要が期待されるため、令和元年度から休耕地を活用した果実栽培を奨励し特産品として採取できるよう取り組んでいます。

今後も三好市や香川大学、そして徳島署が連携・協力し、「木の文化」の継承や果実の活用を通じた地域振興に寄与していきたいと考えています。